



平成29年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成28年8月4日

上場会社名 カドカワ株式会社 上場取引所 東
 コード番号 9468 URL <http://info.kadokawadwango.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 川上 量生
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 松原 眞樹 TEL 03-3549-6370
 四半期報告書提出予定日 平成28年8月10日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年3月期第1四半期の連結業績（平成28年4月1日～平成28年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第1四半期	49,014	4.5	2,732	138.5	2,037	23.6	1,059	—
28年3月期第1四半期	46,906	—	1,145	—	1,648	—	△220	—

(注) 包括利益 29年3月期第1四半期 746百万円 (407.1%) 28年3月期第1四半期 147百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年3月期第1四半期	15.63	—
28年3月期第1四半期	△3.11	—

平成28年3月期第1四半期における対前年同四半期増減率については、平成27年3月期第1四半期は設立第1期の第1四半期（平成26年10月1日から12月31日まで）であり比較すべき対象期間が異なるため、記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
29年3月期第1四半期	201,615	104,168	51.1	1,519.93
28年3月期	201,609	104,526	51.4	1,529.43

(参考) 自己資本 29年3月期第1四半期 103,107百万円 28年3月期 103,680百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年3月期	—	0.00	—	20.00	20.00
29年3月期	—	—	—	—	—
29年3月期（予想）	—	0.00	—	20.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 平成29年3月期の連結業績予想（平成28年4月1日～平成29年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	200,000	△0.5	3,100	△66.0	3,300	△67.6	1,750	△74.4	25.00

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料3ページ「2. サマリー情報（注記事項）に関する事項」をご覧ください。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	29年3月期1Q	70,892,060株	28年3月期	70,892,060株
② 期末自己株式数	29年3月期1Q	3,055,397株	28年3月期	3,102,205株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	29年3月期1Q	67,795,187株	28年3月期1Q	70,794,076株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件等については、3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9
(重要な後発事象)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社グループは、ネットビジネス市場の成長やスマートフォンをはじめとする情報端末の普及で、さらに多様性を増すユーザーニーズを的確に捉え、高度な技術力に裏づけされた独創性の高いネットサービスを生み出し、これをユーザーとともに育てリアルなイベントと融合させるなど、ユニークなITサービスを創出しております。また、出版や映像製作で積み上げてきた企画力、編集力でユニークなコンテンツを日々創出し、あらゆるメディアにマルチ展開させることで収益を最大化させるノウハウを有しております。

ネットサービスの多極化がさらに進む状況下、当社グループは、コンテンツの生産性や収益性を高めるだけでなく、今後さらに成長が期待できる電子書籍や動画配信、スマートフォン向けサービス、海外などへ積極的な展開を進め、事業モデルを大胆に変革するため、高い競争力を持つコンテンツとネットワーク技術を最大限活用した新しいビジネスの創造を図っております。

当社グループの事業の柱が明確になったことに伴い、当四半期より、報告セグメントを「Webサービス」、「出版」、「映像・ゲーム」に変更しております。従来のセグメント区分「ポータル事業」、「ライブ事業」及び「モバイル事業」を「Webサービス」に、従来のセグメント区分「書籍IP事業」及び「情報メディア事業」を「出版」に、そして従来のセグメント区分「映像IP事業」及び「ゲーム事業」を「映像・ゲーム」に含めております。また、従来のセグメント区分「情報メディア事業」のうちの一部事業につきましては、「その他」に含めております。

Webサービス事業においては、平成28年4月29日、30日に「ニコニコ超会議2016」を開催し、2日間のリアル会場総来場者数は15万2,561人、ネット総来場者数は554万8,583人となりました。新たなコンテンツとして、ボーカロイド楽曲「千本桜」と歌舞伎「義経千本桜」が融合した独自演目「超歌舞伎」が高い評価をいただきました。

niconicoにおいては、企業・団体・ユーザーが動画や生放送、記事を配信できるプラットフォーム「ニコニコチャンネル」の有料登録者数が順調に増加し、平成28年5月末に50万人を突破しました。また、選挙権年齢が18歳以上に引き下げられてから初の国政選挙となった参議院選挙においては、niconicoでの特設サイト開設や党首討論会の生放送を実施いたしました。これらの取り組みにより、niconicoの平成28年6月末における発行ID数は5,755万、様々な特典が受けられる有料の「プレミアム会員」は256万人となりました。高画質化や新サービス開発のための投資は、計画通り高水準で推移しております。

一方、ダウンゴジェイビーにおいては、嵐、Hey! Say! JUMPなど人気アーティストのニューシングルの先行配信が、会員数減少を想定内にとどめる効果を上げました。

以上の結果、売上高は79億17百万円（前年同四半期比6.1%減）、セグメント利益（営業利益）は4億48百万円（同65.4%減）となりました。

出版事業においては、メディアミックス作品の強化やUGC（User Generated Content）の商品化を積極的に進めております。平成28年2月に開設した小説投稿サイト「カクヨム」は当初想定を上回る作品投稿数、ページビューとなり、会員登録数6万人、総PV数5,500万を突破しております。

また、「泣き童子 三島屋変調百物語参之続」、「ソードアート・オンライン」シリーズ、「僕だけがいない街」などが業績に貢献いたしました。

一方、雑誌販売や広告売上の減少が続く市場環境に対応するため、不採算事業からの撤退や、リソース、ノウハウを活用したインキュベーション事業の展開を進め、事業構造の転換を図っております。

以上の結果、売上高は259億52百万円（前年同四半期比9.4%増）、セグメント利益（営業利益）は21億57百万円（前年同四半期 営業損失2億77百万円）となりました。

映像・ゲーム事業においては、「ARIA The ORIGINATION Blu-ray BOX」、「この素晴らしい世界に祝福を！」などのアニメ作品を中心にDVD、Blu-rayの販売が堅調に推移いたしました。また、平成28年6月に映画「貞子vs伽椰子」を公開いたしました。市場拡大が続く海外へのアニメ版權販売ビジネスも引く続き伸張しております。

一方、ゲームにおいては、平成28年3月に発売し、全世界で300万本以上の出荷となった「DARK SOULS III」の追加出荷、ダウンロード販売や「√Letter ルートレター」などが業績に貢献いたしました。

以上の結果、売上高は102億29百万円（前年同四半期比8.6%増）、セグメント利益（営業利益）は10億52百万円（同32.3%増）となりました。

その他においては、キャラクター商品やアイドルCDのeコマース、アニメやniconicoから生まれたコンテンツの販売や著作権利用料収入、クリエイティブ分野で活躍する人材を国内外で育成するスクール運営などが主な売上となっております。

以上の結果、売上高は56億67百万円（前年同四半期比6.5%減）、セグメント損失（営業損失）は39百万円（前年同四半期 営業利益87百万円）となりました。

この結果、当四半期の連結業績は、売上高490億14百万円（前年同四半期比4.5%増）、営業利益27億32百万円（同138.5%増）、経常利益20億37百万円（同23.6%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益10億59百万円（前年同四半期 親会社株主に帰属する四半期純損失 2億20百万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債、純資産の状況

当第1四半期連結会計期間末の資産は、前期末に比べて5百万円増加し、2,016億15百万円となりました。受取手形及び売掛金等が減少した一方で、長期借入れによる収入等により現金及び預金が増加しました。

負債は、前期末に比べて3億64百万円増加し、974億46百万円となりました。支払手形及び買掛金等が減少した一方で、長期借入金が増加しました。

純資産は、前期末に比べて3億58百万円減少し、1,041億68百万円となりました。配当金の支払等により資本剰余金が減少した一方で、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上等により利益剰余金が増加しました。

②キャッシュ・フローの状況

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益20億43百万円の計上等により、6億92百万円の収入（前年同期は41億72百万円の支出）となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産及び無形固定資産の取得による支出等があったものの、定期預金の払戻による収入等により、6億87百万円の収入（前年同期は45億89百万円の支出）となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入れによる収入等により、87億85百万円の収入（前年同期は8億66百万円の支出）となりました。

以上の結果、為替換算差額も含めて96億26百万円の収入となり、現金及び現金同等物の四半期末残高は、新規連結に伴う増加額を含めて618億44百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成29年3月期の連結業績予想につきましては、当社グループを取り巻く事業環境の変化は早く、それに伴い当社の業績も短期的に大きく変動することも想定されることから通期業績のみを開示することとしております。なお、通期連結業績予想については、平成28年5月12日に公表しました業績予想から変更ありません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計方針の変更

（平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱いの適用）

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」（実務対応報告第32号 平成28年6月17日）を当第1四半期連結会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

なお、この変更による当第1四半期連結累計期間の連結財務諸表に与える影響は、軽微であります。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成28年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	60,804	69,253
受取手形及び売掛金	43,629	36,031
たな卸資産	16,067	16,421
その他	12,405	11,548
貸倒引当金	△1,079	△1,089
流動資産合計	131,827	132,166
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	11,439	11,265
工具、器具及び備品（純額）	2,572	2,837
土地	19,035	20,275
その他（純額）	1,540	658
有形固定資産合計	34,587	35,037
無形固定資産		
のれん	255	288
その他	6,278	6,331
無形固定資産合計	6,534	6,620
投資その他の資産		
投資有価証券	18,347	18,524
その他	10,951	9,904
貸倒引当金	△640	△637
投資その他の資産合計	28,659	27,791
固定資産合計	69,781	69,448
資産合計	201,609	201,615

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成28年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	25,798	21,810
短期借入金	36	193
1年内返済予定の長期借入金	2,298	2,265
賞与引当金	2,447	1,375
ポイント引当金	105	101
返品引当金	8,122	6,998
株式給付引当金	70	45
役員株式給付引当金	130	63
その他	22,449	19,472
流動負債合計	61,459	52,326
固定負債		
長期借入金	27,042	36,666
退職給付に係る負債	3,341	3,342
その他	5,239	5,111
固定負債合計	35,623	45,119
負債合計	97,082	97,446
純資産の部		
株主資本		
資本金	20,625	20,625
資本剰余金	64,662	63,474
利益剰余金	22,267	23,101
自己株式	△4,896	△4,798
株主資本合計	102,659	102,401
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△496	△136
繰延ヘッジ損益	—	△27
土地再評価差額金	10	10
為替換算調整勘定	1,590	935
退職給付に係る調整累計額	△83	△76
その他の包括利益累計額合計	1,020	705
非支配株主持分	846	1,061
純資産合計	104,526	104,168
負債純資産合計	201,609	201,615

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)
売上高	46,906	49,014
売上原価	33,107	34,178
売上総利益	13,799	14,836
販売費及び一般管理費	12,653	12,103
営業利益	1,145	2,732
営業外収益		
受取利息	12	22
受取配当金	212	160
持分法による投資利益	188	196
為替差益	75	—
その他	69	72
営業外収益合計	558	452
営業外費用		
支払利息	25	23
為替差損	—	368
寄付金	29	749
その他	1	6
営業外費用合計	55	1,147
経常利益	1,648	2,037
特別利益		
投資有価証券売却益	—	6
関係会社清算益	106	—
その他	9	—
特別利益合計	116	6
特別損失		
投資有価証券評価損	5	—
その他	0	—
特別損失合計	5	—
税金等調整前四半期純利益	1,759	2,043
法人税等	1,921	975
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△162	1,068
非支配株主に帰属する四半期純利益	57	8
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△220	1,059

(四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△162	1,068
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	289	360
繰延ヘッジ損益	—	△27
為替換算調整勘定	7	△594
退職給付に係る調整額	14	7
持分法適用会社に対する持分相当額	△1	△66
その他の包括利益合計	309	△321
四半期包括利益	147	746
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	83	744
非支配株主に係る四半期包括利益	63	2

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,759	2,043
減価償却費	1,002	1,025
のれん償却額	67	35
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	△157	16
返品引当金の増減額 (△は減少)	△579	△1,124
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△1,046	△1,072
受取利息及び受取配当金	△225	△183
持分法による投資損益 (△は益)	△188	△196
売上債権の増減額 (△は増加)	5,523	7,594
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△575	△375
仕入債務の増減額 (△は減少)	△3,641	△3,967
前受金の増減額 (△は減少)	△1,047	△1,689
その他	1,330	△106
小計	2,221	1,999
利息及び配当金の受取額	260	288
利息の支払額	△13	△12
事業構造改善費用の支払額	△5,118	—
法人税等の支払額	△1,524	△1,583
営業活動によるキャッシュ・フロー	△4,172	692
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の純増減額 (△は増加)	△3,040	2,001
有形固定資産の取得による支出	△1,232	△847
無形固定資産の取得による支出	△713	△589
投資有価証券の取得による支出	△220	△25
投資有価証券の売却による収入	—	92
子会社の清算による収入	300	—
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	—	21
その他	316	33
投資活動によるキャッシュ・フロー	△4,589	687
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	—	156
長期借入れによる収入	—	10,000
長期借入金の返済による支出	△422	△453
非支配株主からの払込みによる収入	284	420
配当金の支払額	△707	△1,378
その他	△21	40
財務活動によるキャッシュ・フロー	△866	8,785
現金及び現金同等物に係る換算差額	77	△538
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△9,552	9,626
現金及び現金同等物の期首残高	59,201	52,175
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	43
現金及び現金同等物の四半期末残高	49,649	61,844

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

前第1四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 3
	Webサービス	出版	映像・ゲーム				
売上高							
外部顧客への売上高	8,390	23,395	9,348	5,760	46,894	11	46,906
セグメント間の内部 売上高又は振替高	40	336	70	297	744	△744	—
計	8,430	23,731	9,418	6,058	47,639	△732	46,906
セグメント利益又は 損失(△)	1,295	△277	795	87	1,901	△755	1,145

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメント等であり、教育事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失の調整額△755百万円の主な内訳は、セグメント間取引消去29百万円、各報告セグメントに配分していない全社収益400百万円、全社費用△1,185百万円であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第1四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 3
	Webサービス	出版	映像・ゲーム				
売上高							
外部顧客への売上高	7,817	25,611	10,045	5,537	49,012	2	49,014
セグメント間の内部 売上高又は振替高	99	341	184	129	755	△755	—
計	7,917	25,952	10,229	5,667	49,767	△752	49,014
セグメント利益又は 損失(△)	448	2,157	1,052	△39	3,620	△887	2,732

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメント等であり、教育事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失の調整額△887百万円の主な内訳は、セグメント間取引消去40百万円、各報告セグメントに配分していない全社収益440百万円、全社費用△1,368百万円であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する情報

経営統合後から事業戦略を検討してきた結果、当社グループの事業の柱が明確になったことに伴い、当第1四半期連結会計期間より、報告セグメントを従来の「書籍IP事業」、「情報メディア事業」、「映像IP事業」、「ポータル事業」、「ライブ事業」、「モバイル事業」、「ゲーム事業」から、「Webサービス」、「出版」、「映像・ゲーム」に変更しております。

主な変更の内容は、従来のセグメント区分「ポータル事業」、「ライブ事業」及び「モバイル事業」を変更後のセグメント区分「Webサービス」に含め、また従来のセグメント区分「書籍IP事業」及び「情報メディア事業」を変更後のセグメント区分「出版」に含め、そして従来のセグメント区分「映像IP事業」及び「ゲーム事業」を変更後のセグメント区分「映像・ゲーム」に含めております。従来のセグメント区分「情報メディア事業」のうちの一部事業につきましては、変更後の「その他」に含めております。

なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

(重要な後発事象)

(多額な資金の借入)

- (1) 当社は長期運転資金を確保することを目的として、以下のとおり金融機関と総額150億円の借入につき合意いたしました。

借入先	(株)みずほ銀行、(株)三菱東京UFJ銀行
借入総額	150億円
借入日	平成28年8月2日
利率	基準金利＋スプレッド
借入期間	7年
担保	なし

- (2) 当社の連結子会社である(株)KADOKAWAは、金融機関からの既存の借入（総額100億円、平成31年3月期日）及びコミットメントライン契約（極度金額150億円、借入実行残高なし、平成30年3月期日）を見直し、金融費用を削減することを目的として、期限前返済及びコミットメントライン契約の解約並びに総額250億円の借入につき合意いたしました。

借入先	(株)三井住友銀行、(株)みずほ銀行、 (株)三菱東京UFJ銀行、(株)りそな銀行
借入総額	250億円
借入日	平成28年8月1日から平成28年8月5日
利率	基準金利＋スプレッド
借入期間	7年
担保	なし